

図表Ⅲ

	遊戯操作と C. A. T に共通して現れたもの	遊戯操作にあらわれたもの	C. A. T にあらわれたもの	
(1) F 子	その他 人間関係のもの	母は父より優位な位置 本人は性格が淋しい・甘えっ子 交友場面が多い	創意にとむ 物事に熱中する ものしまつが良い 父母が外出好き	父に同情的 母に気に入られようと努力する 自己の優秀性を自覚している
	要求とプレ ーション	友だちと遊びたい	赤ちゃんがほしい 仔犬をかいたい	家庭で抑圧されるものが、時々攻撃的な形として表現されながらも本人の聰明さのため内攻する
	今 指導 後の 方針	生活領域にひろがりをもたせたい 交友関係をひろめ、明るくのぼしたい	創意・集中度のふかさ・きまりのよい点などそのままのぼしたい・動物飼育などで愛情と明るさをあたえたい	家庭における抑圧の排除 人間関係の調整
(2) K 子	その他 人間関係のもの	甘えっ子・自己中心的 大人の歡心をえようとする でためめ・きまぐれ・散漫・くったくない 要領がいい	家庭的で細やか 人に対していねいでやさしい・思いやりがある・大人びた仕事をし人なつこい 工夫する	家庭が明るい ほほえましい表現が多く言葉のもつニュアンスのおもしろさは大きな収穫であった ずるさがある
	要求とプレ ーション	みとめられたい 愛されたい	女の赤ちゃんがほしい 犬をかいたい	愛されたいとくに 両親をはさんで兄妹間の対立が大きい
	今 指導 後の 方針	正しい態度で子どもを可愛がることの必要性を痛感 でためめを正しく汲みとり情操方面へむけてのぼしたい	ままごと遊びのように本人の集中する素材をあたえて集中力を伸ばしたい	

これらの実験を通して、今まで何気なく看過した子どもたちの遊びを手掛りとして、外に現れない無意識の行動を判断し、日常生活の中で多少によらず押えられている不満や要求を見出し、それを治療し、正しい方向へむけてのぞましい成長をはかることが必要で、これを如何に実際の生活の中に生かすかが今後の関題である。

### 幼児・児童画統覚検査について

お茶の水女子大 浜田 駒子

私は、いま発表なさいました加藤さんの後をついで、松村康平先生につき、ベラック版 C・A・T について研究した。

これら十枚の絵で果して子どもの性格がとらえられるかどうかという疑問から出発したのである。

C・A・T を行ったのは、

お茶の水女子大学附属幼稚園六才児 男女一〇名

太田区昭和幼稚園六才児 男女五名

同 外人児童でありました。

絵画統覚検査については先程 R・C・A・T を発表なさった方がくわしくお話なさいましたので、省略させて頂きたい。ここでは上記の結果からベラック版 C・A・T の限界(短所)をスライドをみながら簡単に説明申し上げることにしたい。

①まず、練習版のないこと。

②絵の書き方がリアルでヒヨコをカエル・カラス等と見ており、図版の意図にそわない。

第1図版

③日本人の生活様式と図版に描かれている様式とちがう。

食事の方法

ベット

トイレット

④⑤Xをねらった図版にそうした反応はなかった。

第V図版 第VI図版

⑥全体として動きのある絵が少ないが、やはり反応のよくおこなわれたのは場の重なりをもつこの二つであった。

第II図版 第VIII図版

⑥主人公にいろいろな動物が登場するので同一化しにくい。

子どもの見方と、母親の見方のズレが実際の保育に大きく作用している場合は多々あります。私はこのC・A・Tをつかって母親の認識構造をかえる試みをしてみた。

対称は先に行った子どもの母親で

方法は一回目を子どもと同じ方法で行います。二回目は、それはあなたのお子さんはどうみただしうかと質問し、母親の立場の転換がただけできているかを見、三回目に子どもの反応を知らせるのである。ここで母親は、

○自分の反応と、

○母が子の立場での反応と、

○子どもの反応

の三つを考えてズレとか一致とかを見出し、アアソウカという体験をするのである。例えば、

第八図は猿が応接室でコーヒーをのみながら話をしてしていると

ろ、ねらいは家族におけるその子どもの役割りをみるものである。

子どもはこれをおいしゃさまとみたり、左手のサルを兄弟とみたりさまざまであるが、

母親たちは、一名をのぞいて全部

「お客さまがいらっしゃってお母さんが、子どもはうるさいからあちらへ行ってらっしゃい」といっているところだと反応しました。

「あっちへ行っていらっしゃい」という会話の中に家庭での子どもの扱い方がうかがわれる。

母親A「静かにして居られるのならないですよ。出来ないと思ったら外で遊んでいらっしゃい」

母親B「お客様ですからあなたは外であそんでいらっしゃい。」  
こどもは不平そうに出て行って、戸口で自分の存在をしらせるようにドタン、ドタンとドアに駄をぶつけています」etc.

お母さんは本当によるこんでこのアアソウカ体験に参加してくださった。そして祖母と母親との保育上の問題がその子の反応にあらわれたり、いつも自分がこどもに云っていることがたりすることから、それに関連したいろいろな質問をしてくださった。

このたび、C・A・Tの日本版ができました。

(戸川・松村・本明・小島作成)

これはベラック版の欠点をのけ、日本の文化様式に適して、より反応しやすいように心がけてつくられたものである。

一つの例を挙げれば、ベラック版C・A・Tはいろいろな動物が登場したが、日本版C・A・Tは他の動物とともに、リスはどの図版にも必ず登場させ、又、どれになりたいかをきいて、自己同一

化を確認するようになっていた。先程発表の方は兎のみに統一した  
そうで大変結構であるが、日本版C・A・Tがリスを用いたのは兎  
では親しみやすい点がかえって欠点になりはしないか（昔からの話  
の中にもうさぎはよくでくる）ということからである。

他の動物を登場させたのもトラでさえもやさしく反応することも  
あるからである。

時間があれば、日本版C・A・Tの結果をも申し上げるのである  
が、今回はベラック版C・A・Tの限界を申し上げ、更に新しい方  
法として母親のアソウカ体験についてお話したわけである。

## Finger-painting (2057)

—保育しにくい幼児に施行せる結果—

大阪市立大学児童学研究室

小西勝一郎

並河信子

### 1. 目的

指絵の治療的効果については、すでに多くの研究があるが、我々  
は幼稚園で保育しにくい幼児に指絵を描かせ、指絵が幼児の行動に  
いかなる効果を及ぼすかを明らかにせんとし、次の如き手続による  
研究を行い、併せて彼等の指絵の特性について分析を行った。

### 2. 手続

研究の対象は、大阪市立日吉幼稚園及び私立堀江幼稚園に於て、  
担任教師によって最も保育しにくい者として選ばれた一七名（平  
均年齢6.26 $\pm$ 0.31年、平均I・Q100.48 $\pm$ 13.32以下E群とする）  
及び之と比較するため選んだ保育し易い幼児一七名（平均年齢6.26  
 $\pm$ 0.40年、平均I・Q112.76 $\pm$ 9.26以下C群とする）である。

指絵の効果を判定するために、実験の前後に幼児の行動を評価す  
るよう担任教師に依頼した。（評価は幼児指導要録についている行  
動評価表による）

保育しにくい子供として選んだ理由として、教師によれば内向  
的、消極的、無口、依頼心が強い、注意散漫、我儘、攻撃的、自己  
中心的、共同生活の秩序を乱す、落着かない、神経質、喧嘩をよく  
する、興味がかたよっている等があげられている。

E、C両群中夫々九名（F群）に対し、一週間間隔で一枚ずつ継続  
的に指絵をかかせ残りの幼児（non E群）にはかかせなかった。

今回は実験に先だって、保育室において、全園児に一度だけ、指  
絵の経験させ、実験中はとりたてて説明しなかつたことと、指絵  
具は無意配列した赤黄緑青茶黒及び紫の七色を用いた他は、描画の  
手続はすべて前回に準じた。

なお一人の幼児の描いた指絵の合計は、病氣其他の理由で必ずし  
も一致せず、最低四回から最高七回であった。

期間は一月から三月迄である。

### 3. 結果

#### 1. 指絵の効果について

整理として先ず担任教師によってなされた行動評価の各項目は三